

平成18年3月期

# 決算説明会

平成18年5月30日



株式会社 東邦システムサイエンス

# 目 次

## 会社概要

- ・ 平成18年3月期業績
- ・ 平成19年3月期業績見込
- ・ 平成19年3月期経営方針

# 会社概要

【 設 立 】 1971年(昭和46年)6月

【 上 場 市 場 】 JASDAQ (2001年12月19日上場)

【 資 本 金 】 3億 7,698万円

【 事 業 内 容 】 1.ソフトウェア開発 94.5%  
2.情報システムサービス等 5.5%

【 特 徴 】 金融コア型経営 (金融関連 62.1% )

【 従 業 員 数 】 466名(平成18年3月末日現在)

【 関 連 会 社 】 株式会社ティエスエス・データ・サービス

# ・平成18年3月期業績



## 当期の経営環境

- 当期における日本経済は、景気が緩やかに回復を続けており、企業部門の好調さが、雇用・所得環境の改善を通じて家計部門へ波及し、民間需要中心に回復している
- 物価については、デフレからの脱却に向けた進展が見られるものの、依然としてデフレ状況にある
- 情報サービス業界においては、経済産業省の特定サービス産業動態調査によれば、当社が主力とする受注ソフトウェア売上高は、平成17年度は対前年比で2.7%程度の伸展

# 平成18年3月期業績概要

(連結ベース、単位:百万円)

	平成17年 3月期	平成18年 3月期	増減率 %
売上高	3,730	5,863	57.2
営業利益	231	584	152.8
経常利益	255	635	148.6
当期純利益	112	371	229.2
総資産	4,337	4,939	13.9
純資産	2,346	2,527	7.7

# 当期ビジネスハイライト

## (1) 生保ビジネスの伸展

– 11億9,264万円

(対前年比128.1%、構成比20.4%)

NRIのe-パートナーとしての保険ビジネスにも積極的に参画

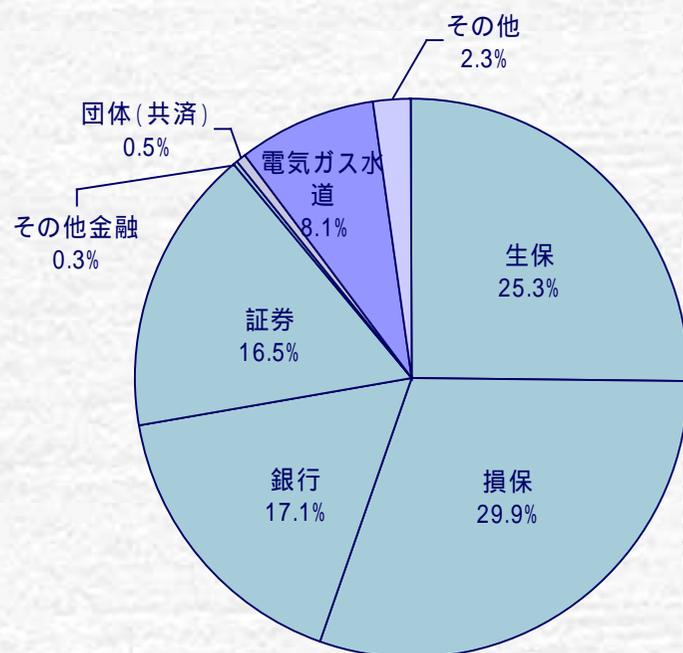
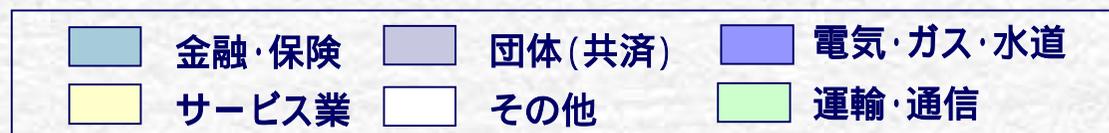
## (2) 業種別売上構成の変化

– 金融中心の売上構成ではあるが、通信業に関わる売上構成が主要な一部を占めるようになった

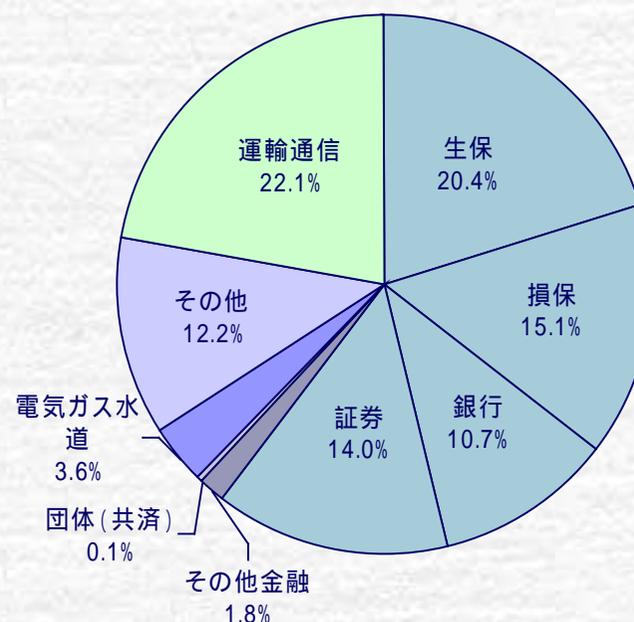
通信業10億4,533万円(構成比17.9%)

# 業種別売上高 (%)

< エンドユ - ザベ - ス >

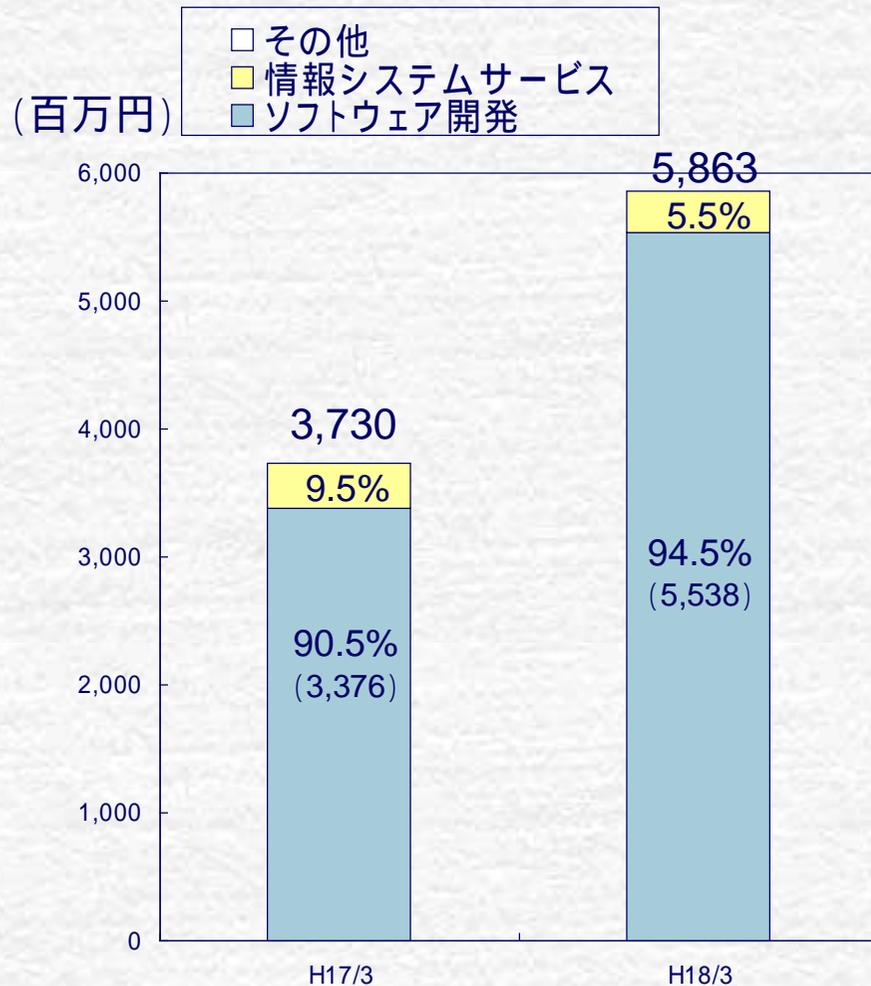


金融関連: 89.8%  
< 平成17年3月期 >



金融関連: 62.1%  
< 平成18年3月期 >

# セグメント別売上高



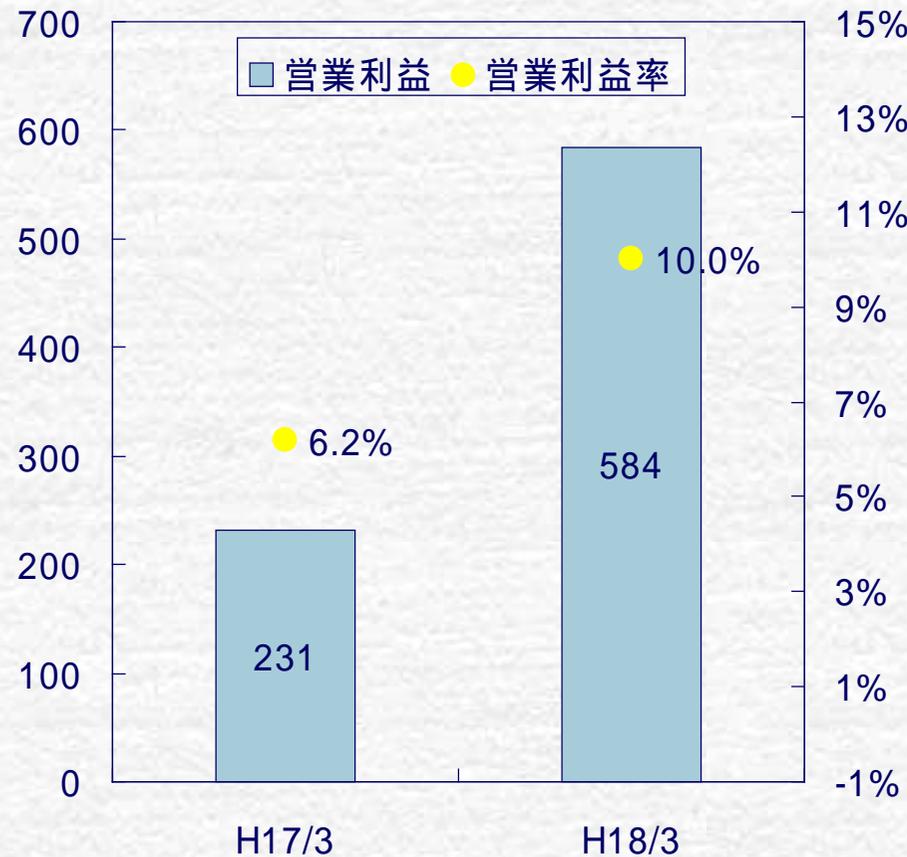
## • 当期の主な売上先 (売上高上位4社)

- (株)野村総合研究所  
1,071百万円(18.3%)
- 富士通(株)  
881百万円(15.0%)
- 日本ユニシス・ソリューション(株)  
765百万円(13.0%)
- (株)エヌ・ティ・ティ・データ  
623百万円(10.6%)

# 営業利益・営業利益率

営業利益 (百万円)

営業利益率(%)

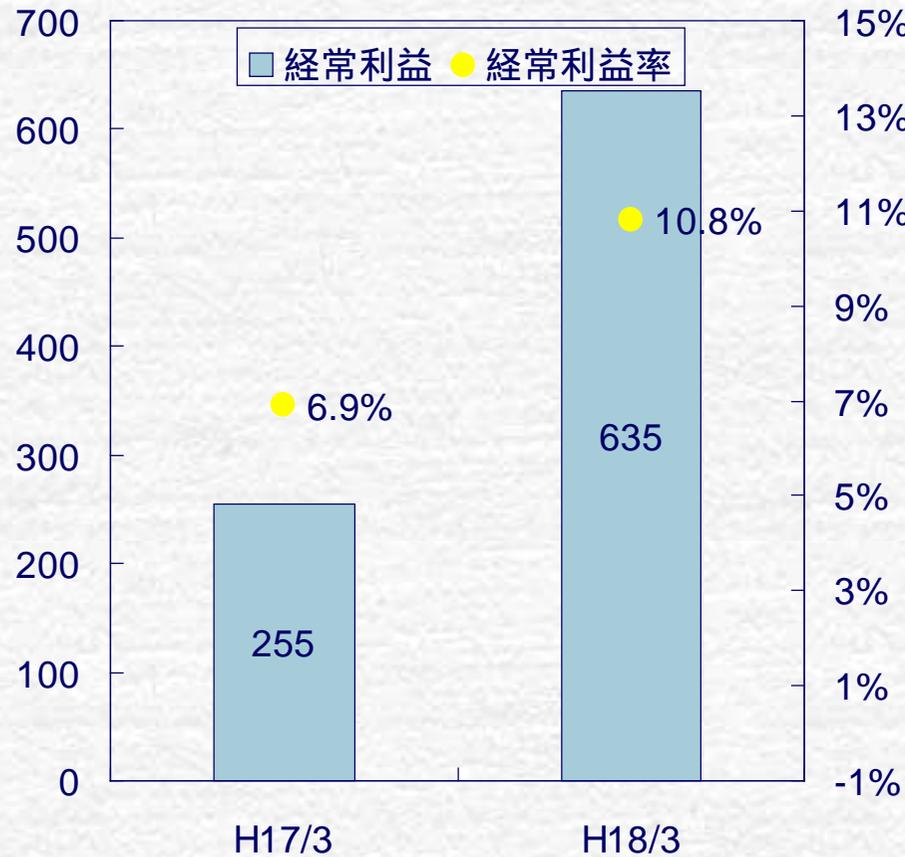


- 営業利益増加要因
  - 売上の大幅な増加
  - 売上総利益率の改善 ( 18.2% 19.5% )

# 經常利益・經常利益率

經常利益 (百万円)

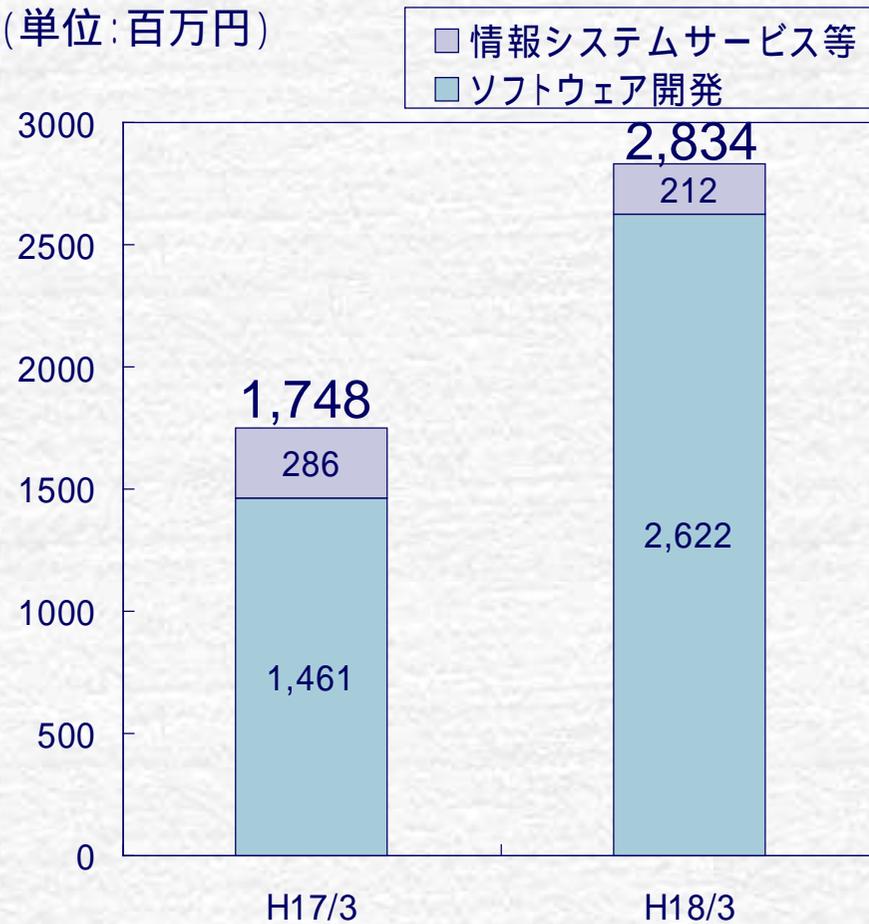
經常利益率(%)



- 經常利益増加要因
  - 營業利益率の改善 (6.2% 10.0%)

# 受注残高

(単位:百万円)



## • 受注残高の現状

- 18年3月期も一定の受注残を確保
- 17年3月期は、旧中野ソフトウェア・エース分を加味すると、2,400百万円程度の受注残

## 当期経営ハイライト(1)

- 平成17年4月1日株式会社中野ソフトウェア・エースと合併
- 平成17年12月31日付株式会社テムスの営業譲受により、平成18年1月1日付で株式会社テムスから82名の社員が中途入社  
平成18年3月期末人員が466名となる

## 当期経営ハイライト(2)

- 制度信用銘柄への選定

- 株主数、売買高などの基準を満たし、平成17年9月1日付で制度信用銘柄に選定

- 売買高の増加  
213万5400株(平成17年4～9月)  
350万1600株(平成17年10月～平成18年3月)
- 株主数の増加(単元株主数)  
1,733人(平成17年3月末) 2,134人(平成18年3月末)

- 株式分割

- 平成18年4月1日付で1対1.5の分割(無償交付)を実施
- 発行済株式総数は、現在613万株に

# . 平成19年3月期業績見込

# 平成19年3月期の経営環境

## 日本経済

消費及び設備投資は引き続き増加し、民間需要中心の緩やかな回復を続けると考えられており、物価についてはデフレ脱却の展望が開け、消費者物価・GDPデフレーターもプラスに転じると見込まれる。

## 当社主力市場－金融業界

- 情報化投資への需要は拡大
- 勘定系システム開発 情報系システム開発が増加

# 金融機関の情報化投資の動向

## (1) 企業存続を賭けての情報化投資は必須

( 費用対効果や低コスト・高品質の要求が依然厳しい )

## (2) メインフレームからオープン系システムへの移行

( Java、UML等オブジェクト指向技術の重要性 )

## (3) STP、Web Banking、新情報系システム

( グローバル対応、顧客接点の多様化、顧客要望の高度化 )

## 平成19年3月期業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
連 結	6,400百万円	600百万円	350百万円	57.10円
(前期比)	109.2%	94.5%	94.3%	66.6%
個 別	6,380百万円	584百万円	342百万円	55.80円
(前期比)	109.4%	94.5%	94.5%	66.8%

\* 一株当たり当期純利益は、平成18年4月1日の1:1.5の株式分割後株数をベースとしております。

# ・平成19年3月期経営方針

## 基本戦略

- マーケティング戦略
- 社内運営管理に関する戦略
- 技術戦略
- M&A業務提携戦略
- 企業統治に関する基本方針

# 1. マーケティング戦略

- 金融分野を中核とした市場競争力の一層の強化

株式会社中野ソフトウェア・エース、株式会社テムスの得意とする技術ノウハウと東邦システムサイエンスの金融を中心としたアプリケーション開発力との統合による新たな市場開拓

- オープン系システムへの対応

ソフトウェア開発におけるオープン系比率は69.0%となり、オープン系システム開発への対応力を確保

- SI、メーカー、ユーザとの均衡のとれた安定取引

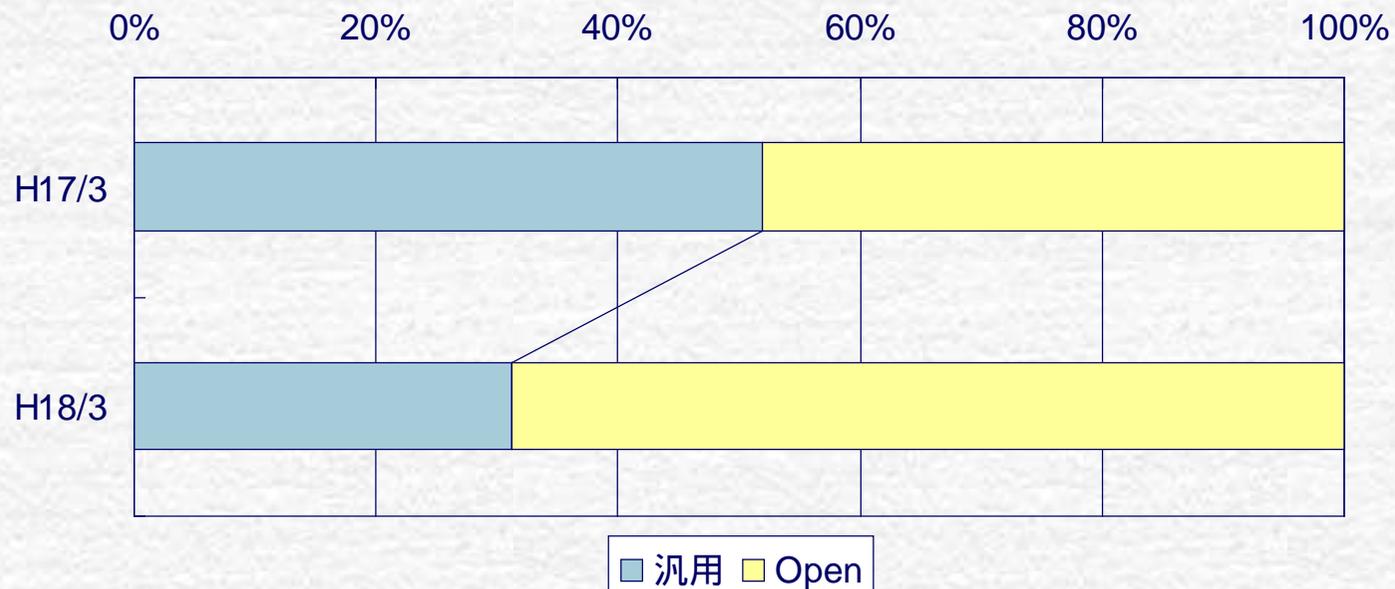
受注におけるリスクを分散し、安定的な業績をあげるためにSI、メーカー、ユーザのバランスを考慮

## \* オープン系システムへの対応

- 汎用・オープンの売上高構成比(ソフトウェア開発) (単位:円)

	汎用		オープン		合計
H17/3	1,752,549,995	51.9%	1,623,118,309	48.1%	3,375,668,304
H18/3	1,718,149,083	31.0%	3,820,610,994	69.0%	5,538,760,077

汎用・オープンの構成比



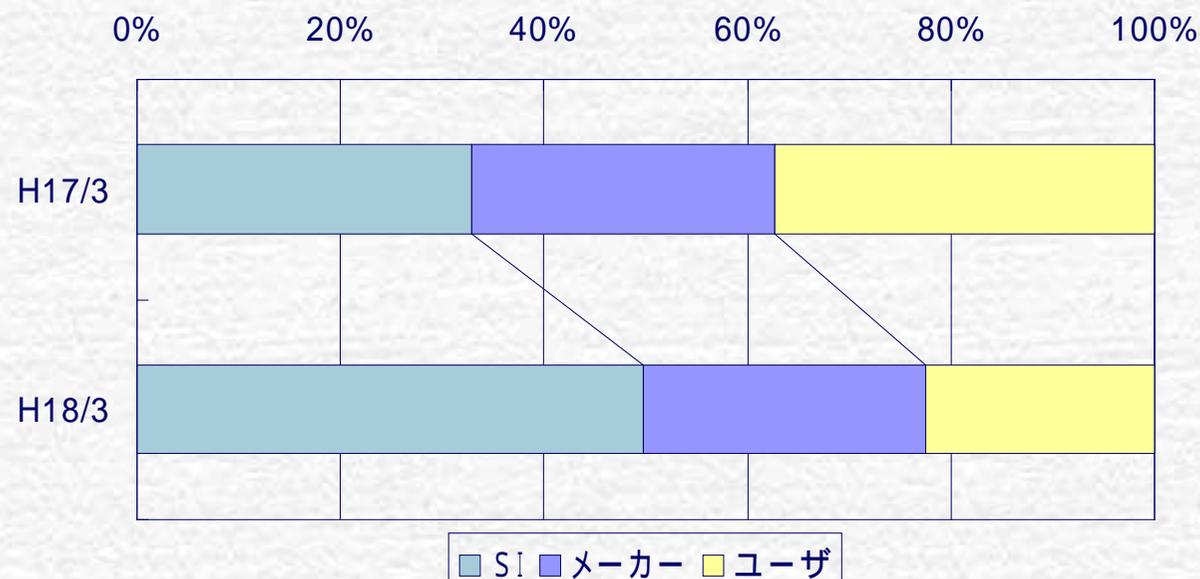
# \* SI、メーカー、ユーザとの均衡のとれた安定的取引

## ● 受注先種別の売上高構成比(ソフトウェア開発)

(単位:円)

	SI		メーカー		ユーザ		合計
H17/3	1,108,898,616	32.8%	1,005,048,330	29.8%	1,261,721,358	37.4%	3,375,668,304
H18/3	2,734,912,166	49.4%	1,565,909,907	28.3%	1,237,938,004	22.4%	5,538,760,077

受注先種別の構成比



## 2. 社内運営管理に関する戦略

- プロジェクト生産性の確保
  - PMO(プロジェクト・マネジメント・オフィス)、ISOの着実な展開  
旧株式会社テムスのプロジェクトについても完全展開
  - プロジェクトの受注から納品にいたるまでの節目ごとのプロジェクト点検制度の完全実施
- 情報セキュリティの実施による信頼性確保
  - 個人情報保護法対応を初めとした社内の情報管理体制、情報セキュリティ実施基準により、システム開発の信頼性確保に努める
- パートナー管理の徹底
  - コスト・生産性・情報管理など適切な協力会社管理の推進

### 3. 技術戦略

- インターネットインフラであるJava,UML等オブジェクト指向技術の習得と若手技術者の実装力強化
- 新入社員から既存社員までの教育・研修の充実化による、業務知識の完全習得やプロジェクトマネージャーの組織的養成 「プロマネを育てよう」運動の展開
- 階層別研修、指名研修などの効果的活用と海外研修の実施による社員インセンティブの強化
- 中国におけるオフショア開発  
実践段階に

## 4 . M&A・業務提携戦略

- 株式会社中野ソフトウェア・エースとの合併、株式会社テムスの営業譲受を機に、より強固な経営基盤構築を目指す
- 今後も当社事業と相乗効果が期待出来る分野のM&Aならびに業務提携、協業について継続して検討

重点市場：金融関連市場(証券・保険・銀行・共済等)

通信関連市場

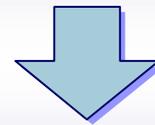
その他既存事業と関連する市場

重点技術：オブジェクト指向技術であるJava、UMLやLinux、XML、ネットワーク、データベース

## 5. 企業統治に関する経営の基本方針

### (1) コーポレートガバナンスの実践

事業態様・事業規模に即したコーポレートガバナンスの実践



中長期的な安定成長、企業価値の増大

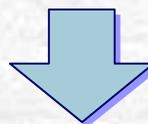
(2) 社外取締役1名と社外監査2名により、独立性に配慮したコーポレートガバナンスを実践

### (3) 株主還元の方針

- ・ 会社競争力の向上
  - ・ 企業価値の最大化
- 
- 株主各位への利益還元を図る

#### < 利益配分 >

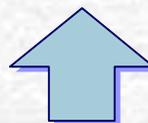
- ・ 18年3月期は普通配当年15円  
(3円の増配)を実施



#### < 株式分割 >

- ・ 18年4月1日付で1:1.5の分割を  
実施

- ・ 株主各位への長期にわたる安定的な配当
- ・ 今後の事業拡大に向けた内部資金の確保



当期の財政状況、利益水準、配当性向

**最適なシステムソリューションを  
提供する高信頼度企業！**



**株式会社 東邦システムサイエンス**



## \* 本資料についてのご注意

本資料は、平成18年3月期の業績および今後の業績見通し、経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載されている株式会社東邦システムサイエンスの将来予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。